

一般社団法人 日本学生卓球連盟
2022年度 第1回理事会
議事録

- 1, 日時 2022年3月12日(土) 14:35 ~ 16:00
- 2, 方法 webにて実施。『Microsoft Teams』
会場 日清紡ホールディングス株式会社
〒103-8650 東京都中央区日本橋人形町 2-31-11
- 3, 出席者 【名誉職、他オブザーバー】 「現地会場、web含む」 ◎議決権無し
- | | | | | |
|-------|-------|------|-------|--------|
| 児玉 圭司 | 竹内 敏子 | 高橋 仁 | 鈴木 健吾 | 安藤 はるか |
| 辻 一志 | 山本 淳広 | | | |
| 鈴木 達也 | | | | |

◎以下、議決権を有する理事

【理事】

現地会場-『出席者』

〈7名〉

河田 正也	鈴木 一雄	牛山 幸彦	板垣 賢一	鄭 泰應
河原 智	對馬 悠			

web出席-『電磁的方法表決者』

〈27名〉

大元 司	中村 秀樹	太田 和都	濱田 美穂	藤倉 健太
本間 雅人	池田 由美子	江尻 雄一	野村 智宏	久保 陽
野嶋 仁志	紙井 健人	高屋 峻大	平井 友也	贅川 優友
外山 瑞樹	川島 奈々加	古川 令	村上 敬次	川村 悠嗣
水澤 侑太郎	谷井 宏伎	岩瀬 裕大	宮田 采佳	神原 龍二
多賀 雅	岸川 拓磨			

欠席者

高島 規郎	米塚 雅弘	小野 誠治	大畑 建樹	深町 大吾
笹谷 宙未				

〈6名〉

※表決委任者は理事会欠席扱い

理事 40名中、現地会場出席者 7名、電磁的方法表決者 27名、計 34名

よって、定款第39条(定足数)、第40条(決議)により、本理事会が成立することを確認した。

定款第43条(議事録)により、理事会の議事録署名人として、理事の中から、河原智、鄭泰應、對馬悠の3名を指名した。また議長(会長)及び出席した監事は、これに署名又は電子署名若しくは記名押印が必要であることを確認。

4、議 題

① 【役員改選】

河田代表理事より、すでに3月8日開催した「日学連拡大理事長会議」において、役員理事、組織の(案)を提案し承認いただいております、定款第25条(役員を設置等)、第26条(選任等)に基づき提案した。

※以下、添付の「日学連組織図」「委員会図」参照

別紙-2

1) 河田正也会長 ➡承認

昨年3月の理事会で、期の途中であるが児玉前会長より引き継ぐ事になり、計画通り法人化を果たし会長としてさらに尽力したい。➡その後、以下の改選案を河田会長が提案し承認した。

2) 竹内敏子副会長退任に伴い、大元司(東海学連会長)が、日学連副会長に就任。 ➡承認

竹内さんは長年の卓球界への貢献を讃え、(公財)日本卓球協会参与および日学連顧問へ推挙 ➡承認

3) 昨年度4月時点で体調不良で辞任した、北信越学連会長-故-田代発造氏(当時日学連副会長)の残任期間を、北信越学連新会長に就任した牛山幸彦氏が、1年間日学連副会長を務められてきたが、今回の改選期も継続して副会長としてお願いすることとした。 ➡承認

4) 柴田幸男参事は東北学連会長退任に伴い、高橋仁(東北学連会長)が参事に就任。 ➡承認

柴田さんは長年の貢献を讃え、日学連の顧問へ推挙。 ➡承認 (公財)日本卓球協会では既に名誉役員となっておられ推挙対応なし。

5) 西村卓二理事辞任にあたり、一昨年度まで理事長を14年間努め、長年の卓球界への功績を讃え日学連参与へ推挙。 ➡承認 (公財)日本卓球協会では日学連理事長退任後、参与に推挙済み。

6) 黒羽副理事長(関東学連理事長)辞任に伴い、新たに関東学連理事長に就任した鄭泰應氏が、日学連副理事長に就任。 ➡承認 ※昨年度残任期間副会長を努めた牛山幸彦氏が、そのまま副会長に就いたため、実務を担当する強化委員長を、鄭泰應副理事長とした。 ➡承認

7) 理事長は河田会長同様、昨年3月の理事会で期の途中で就任した板垣賢一氏も、この1年法人化及び主要3大会の開催を実現し、理事長としてさらに尽力していただきたい。 ➡承認

8) 九州学連の役員改選により、昨年末より矢野正人理事(前九州学連理事長)が退任し、深町大吾氏が新たに九州学連理事長となり、日学連理事としてお願いする。 ➡承認

9) 関東学連枠内での変更により、池田由美子氏に再度日学連理事としてお願いする。 ➡承認

10) 同じく関東学連枠内での変更により、江尻雄一氏に新たに日学連理事としてお願いする。 ➡承認

11) 学生理事 21名中、会計、書記の2名が未定の状況、5~6月中に加盟校の協力をいただいて、紹介することができるかと期待している。

⇒ この度退任される竹内敏子さんより、「短い間でしたがお世話になりました。引き続き、新しく東海学連会長に就任した大元さんをよろしくお祈いします。」とコメントをいただいた。

⇒ この度東海学連会長として日学連副会長に就任した大元司さんより、「引き続きよろしくお祈いします。」とコメントをいただいた。

⇒ この度東北学連会長となり、日学連参事に就任した高橋仁さんより、「今後ともよろしくお祈いし

ます。」とコメントをいただいた。

⇒ この度東北学連会長を退任された柴田幸男氏は、web参加の準備をされていましたが、うまく繋がらず、後日退任のコメントをいただいた。

2022年3月で東北学生卓球連盟の会長を退任いたしました。理事長36年、会長4年の長期間、日本学生卓球連盟の方々にも本当にお世話になりました。これまでのご指導に対し心より感謝いたします。

貴連盟と役員の皆様の活躍をご祈念申し上げます。

柴田 幸男

【報告事項】

① 2021年度事業報告

別紙ー3 ※理事会時の資料参照

1) 第87回全日本大学総合卓球選手権大会・個人の部(所沢市)

・鈴木健吾前幹事長より、関東学連主管により、コロナ対策もしっかり対応され成功裡に終えたことを報告。(事業報告書参照)

2) 日学連復興支援講習会(喜多方市、本宮市)

・鈴木健吾前幹事長より報告。(報告書参照)

別紙ー3

日学連代表として参加した選手のレポートを読んでもらいたいとお願いがあった。

・河田会長より、開催の趣旨を踏まえた日本卓球(株)の主導的な協力により、(一社)福島県卓球協会の齋藤一美会長をはじめ、喜多方市・本宮市の卓球協会の皆さんにお世話になり、本当に有意義な事業と認識しました。まだ帰還できない多くの被災者の方々も、お子さんの卓球に取り組む元気な姿に感動する家族の嬉しそうな笑顔が印象的で、今後も検討し継続したいとの考えを示した。西村当時理事(講師)の内容充実指導、日学連男子代表選手、柏友貴(中央大)、小野寺翔平(中央大)、同女子代表選手、高橋沙希(國學院大)、泉田朱音(東京富士大)による模範練習、模範試合、参加者との交流等々、開催地の皆さんにも喜んでいただき、想像以上の成果であった、との報告。

3) 第17回全日本学生選抜卓球選手権大会(仙台市)

・辻(前常任幹事・前東北学連幹事長)より報告およびお礼の挨拶。(報告書参照)

別紙ー3

・板垣理事長より、進行係のマイクの担当者が素晴らしく印象に残っている旨お礼、および審判員のレベルが全体的に高く、地域の卓球への取り組みの意識の高さを評価し讃えたい。

・本間常任理事より、今回より試合数が増え、参選手にとっては充実した大会となったが、審判員等の日当が嵩み、70万円程度の赤字となったと報告。

② 2021年度会計報告・監査報告

1) 会計報告

- ・対馬幹事長(前会計)より報告。

決算内容を大きくまとめると、一般会計、海外交流基金、児玉基金を含め、≒ 467万円 黒字決算となった。海外交流が、コロナのため支出がなかったこと、一般会計から借りていた 102万円 返済し、今後の支出について計画に沿って進めていきたい。一般会計においては、主要3大会を復活開催したので、さらに支部学連との連携 (web含む) により、メリハリをつけて、より有効な会計にしていきたい。概ね全体像を説明した。

別紙一4

※理事会時の資料参照

2) 会計監査報告

- ➡鈴木達也監査役、中嶋常夫監査役立会いのもと、2/12(金・祝) 学連事務所にて会計監査を実施。対馬幹事長(当時会計)、鈴木健吾(当時幹事長)、河田会長、板垣理事長、出席。
- ・中嶋監査役より、交通費の処理において不適切処理が数件あり指導をいただいた。
- ・鈴木・中嶋両監査役より、国際交流事業において、財政面でやっとスタートにたった段階なので 今後は板垣理事長が示した、3から4年周期でのユニバ参加を中心に据えた予算配分で、決して赤字にならぬよう、より有効な強化事業を計画されたい旨、指導いただいた。
- ・鈴木監査役より、日学連事務所維持費の均等割→登録数割について、収入・支出に明記するよう指導いただいた。(合計額は同額であるが、各支部学連負担額が変更になったため)

③ FISUユニバーシティゲームズ(2021/成都・代表選手選考会(2/26～27・新潟市新潟市西総合スポーツセンター)

- ・対馬幹事長(選考会当時会計)より、結果は添付資料を参照ください、との報告。
- ・選考会参加選手のなかで、**全試合終了順位確定後「本戦棄権」を表明した者**が複数いた問題について、諸々の事情はあると思うが、決してインカレの日程の問題ではなく、「**根本的に違反行為**」であると認識できなければ他の選手への影響、一社会人としての不文律を当該学連・当該校が先ずは指導していただきたい。等々厳しい意見が多数続き、日学連として今後も同様なケースが無いよう、厳正に対処していくことを確認。

別紙一5

2) スタッフ選考状況

- ・牛山副会長より、現在選考中ですがJOCへの推薦候補選手の母体監督より、川田雄二(早稲田大監督)、高宮啓(専修大監督)には前向きな回答をいただいている。その他は折衝中との報告。

3) JTТАより選手団候補メンバー登録の遅れ等、お叱りを受けていることについて

- ・JOCへの登録窓口となっているJTТАより、再三対応の悪さについて指摘されていたが、JTТА理事をお願いしている濱田副理事長と板垣理事長がこの度直接、対応が悪いと説教された。諸事情はあるがメール間に1本電話とか、相手に物事を伝える「レスポンス」返事、反応、応答による相互理解への手法を対馬幹事長は学びつつ、最終段階に入った。もう一息なので乗り切りましょう。

④ 講習会中止報告(3/2～3・中国学連、広島市)

- ・野嶋常任理事より、新型コロナウイルス感染症まん延防止等充填措置のため、安全を担保できないと判断し中止とした。
- ・板垣理事長より、年度内にもう一度開催を計画してもよいのではとの助言。
 - ➡野嶋常任理事より、ありがたく検討させていただきます。とのお礼。
- ・板垣理事長より、他の支部学連でも開催を受付ますので、検討されたい。主管費5万円+選手の派遣をさせていただきます、との提示あり。

⑤ (公財)日本卓球協会関係

- ・濱田副理事長より、報告事項なし。

⑥ 法人化委員会報告

- ・板垣理事長より、1年前に委員会を発足し数回、出だしは「定款」の理解～日学連の継続性に見合った内容に、谷塚行政書士の指導のもと徐々に仕上げていった。これに伴い「規約」「内規」「事業実施細則」も、中村副理事長を中心に纏め改定した。その後の法務局、税務署、銀行の届け出も、谷塚行政書士、河田会長、對馬幹事長(当時会計)、板垣理事長により対応終了。
 - ➡委員の皆さんお疲れさまでした。
 - ➡本委員会は解散し、新たに規約第26条に「倫理委員会」を新設。および内規第10条に「倫理規定を」設け、委員には各支部学連の理事の方(主に女性)のご意見をお聞きしたい旨、協力依頼した。

⑦ 各委員会報告

- ・特になし

⑧ その他

1) 全日本学生チャンピオン会より『今孝(こんたかし)杯』について

- ・全日本学生チャンピオン会の本連盟-河原智常任理事より報告と提案
- ・故-今孝夫人の山本智子様より、これまでのお礼挨拶に伺ったところ、末永く続けてほしいと寄付をいただいたため、以下のとおり対応させていただきたいと提案があった。
 - ➡2022年度の全日学(個人の部)より、
 - (1)男・女シングルス優勝者に、杯(持ち回り)と、レプリカを贈呈する。
 - (2)男・女ダブルス優勝者に、杯(持ち回り)を贈呈し、レプリカは廃止にする。
 - (3)最優秀新人賞は廃止とする。
 - ➡以上、資金が滞るまで、全日学(個人の部)閉会式で表彰を継続すること ➡承認

【協議事項】

① 2022年度事業計画(案)

・対馬幹事長より、資料をもとに提案 ➡承認

別紙一6

② 2022年度会計予算(案)

・対馬幹事長より、資料をもとに提案 ➡承認

別紙一7

※理事会時の資料参照

・板垣理事長より提案

(1)全日学選抜の参加者が最大男女各48名となり、昨年の仙台大会は大変な盛り上がりとなり、大会としての内容がレベルアップされたことは喜ばしいことであるが、運営に特に人件費が

嵩み、今後も本内容で開催したいため、『主管費を100万円→130万円』に増額(案) ➡承認

(2)インカレの主管費は2021年度は、以前より協賛いただいていた 江崎グリコ(株)からの50万円

がいただけないことより『主管費100万円+50万円=150万円』としたが、2022年度以降も

『日学連として150万円』に増額(案) ➡承認
(3)海外交流強化事業は、日中韓はコロナの状況が不透明なので→無期延期(牛山副会長同意見)、
フィンランド(欧州)等のオープン大会は、遠距離で費用対効果が得られないおよびコロナで、
2022年度以降は当面行わない。 ➡承認

(4)海外交流強化事業について、残り1期2年常任理事としてお願いしている 河原強化委員に、
アジア地域で経済的に開催できる事業 について、鄭強化委員長、他委員と協力し、2023年度
までに、氏の長年研鑽された卓球に対する情熱と理論の集大成を 日学連強化事業のスタート
として実現していただきたい。 ➡承認

(5)(一社)日本卓球リーグ実業団連盟との合同強化事業 について、今後大枠～詳細を打ち合わせ
していく。理事長として、より経済的に多数の選手が参加できることを基本 としたい。今後、
鄭強化委員長に打ち合わせに入ってください推進していきたい。 ➡承認

③ 2022年度各大会枠数(案)

・対馬幹事長より、資料をもとに提案 ➡承認

別紙一8

※理事会時の資料参照

・全日学(個人の部)の支部学連の最低枠が増えている。

④ 2023年度事業計画(案)

・対馬幹事長より、資料をもとに提案 ➡承認

別紙一9

・牛山副会長より、FISUユニバーシティゲームズ(2023/ロシア・エカテリンブルグ代表選手選考基準
について、口頭で提案 ➡(案)

別紙一10

※インカレの理事会で審議

⑤ 2022年度委員会組織(案)

・冒頭の【役員改選】にて ➡承認済み

別紙一2

⑥ 2024年度事業計画(案)

・対馬幹事長より、資料をもとに提案 →承認

別紙-11

⑦ その他

- ・2021年度幹事長を努めた、鈴木健吾君が、児玉基金より『幹事長奨励賞』を河田会長より代理で表彰を受けた。そこで健吾君より、4年間の大学生生活のなかで、卓球を通じとても貴重な経験をすることができました。お世話になりました。とのお礼の挨拶があった。
- ・また、2021年度書記を努めた、安藤はるかさんから、歓喜あふれるお礼の挨拶があった。

⑧ 閉会

- ・閉会にあたり、鈴木一雄副会長より、日学連も法人化を果たし、今後とも皆さんと協力し、さらに学生卓球界を発展させるよう頑張らましよう。との挨拶があった。
- ・河田会長より、法人としてのガバナンスコードのもと、「透明化」の中で方針をたて、決定することを少しずつ積み重ねて、組織が活性化しタイムリーな変化をより良いかたちで進めていきたいと思います。との挨拶があった。
- ・板垣理事長の閉会宣言で、法人化後の 第1回理事会を閉会した。

議事録署名人

河原智

河原智

河田正也

議長

鄭泰應

鄭泰應

鈴木達也

監事

對馬悠

對馬悠

中嶋常夫

監事